芸振

大分県芸術文化振興会議

発行人：仲町謙吉　編集人：後藤州一　（題字：牧　泰清）

No.106　平成11.12

もくじ

第１回大分県民芸術文化祭を終えて……1
オープニングフェスティバル……2
開会行事　豊陽会……3
第35回大分県美術展……3
創作作品上演　県民オペラ……4
中幕行事　豊声会……4
閉幕行事　ミュージカル「朝日長者物語」……5
大分県民芸術文化祭スナップ……5
受賞者紹介……6
加盟団体紹介……7
事務局だより……8

第１回大分県民芸術文化祭を終えて

大分県芸術文化振興会議
会長　仲　町　謙　吉

昨年の「第13回国民文化祭おおいた98」の成果を受け継ぎ、第１回の「県民芸術文化祭」が大成功裏に終了できたのは誠に意義深いことである。名称表題にも伝統ある県芸術祭の芸術を位置づけ、全体の構成も総合フェスティバル・芸術文化フェスティバル・地域文化フェスティバル・開会行事・中幕行事・閉幕行事とされ文化団体に親しみやすく、演ずる団体もイメージがわきやすかったのだと思われる。こんな配慮が一層盛りあがる源泉になったのだろう。

国民文化祭の成果の継承と、県民の文化活動の発表と鑑賞の機会を幅広く提供。文化の彩りと薫りに満ちた文化立県大分の実現に少しでも近づくことをめざし、多くの県民の参加を得て文化活動への一層の興味と関心を広げ、豊かな県民生活を創りだす県民総参加の文化の祭典に近づけたのではないだろうか。又、地域の特色ある文化を誇りとして活きいきした発表が多く、今後に大きな期待がみられたことは大変嬉しいことである。

こうした総括的な感じ方の中で、一つの不安の要因は、芸振事務局の移動があるのかも知れない。６月の芸振通常総会で決定した事項であるが、今まで教育庁・文化課になじんでいたため、風通しの悪さを感じた点もあったかも知れないが、現事務局の特別な配慮にも感謝しなければならない。

「第１回大分県民芸術文化祭」が大成功であったことを喜び、更に継続発展を願い、文化立県大分の実現に向けて県民芸術文化祭が「一人一文化」の大きな力となり、心豊かな県民生活を創りだす力となることを願う。

高木悦子（県美協会員）

第１回大分県民芸術文化祭

大分県民演劇制作協議会会長
中沢とおる

オープニング「荒城の月を謳う」を演出して

昨年の〝国民文化祭おおいた98〟のオープニングは、アジア的な拡がりをもった豪華なものでありました。成功の感動を象徴するように閉会式で「文化立県宣言」がありました。それをうけて、昨年まで芸術の秋を背負ってきたお大分県芸術祭（県芸振会議主催）にかわり、今年は第１回大分県民芸術文化祭が開かれました。「豊の国新たな出発（たびだち）」は、文化立県を目指す大分県の志をよく表しています。

今年のオープニングの内容は、その大分の志をみせる舞台でなければ……と、実行委員会準備会で総合演出を依頼されたとき、そのことを自分にいいきかせました。企画委員会（挾間・中沢・吉田・辛島・清末・事務局）で、〝荒城の月〟で全舞台をしめくくることを決めました。大分県は文化の誇り高い県です。殆どの県民に尊敬され愛され、その作品が日常口ずさまれているといえば、瀧廉太郎の〝荒城の月〟であることを確認。その名曲が、音楽の教科書から消されるかもしれないという危機的な状況がいまある。県民一丸となって全国にむけこれを発信する意義は大きいことを確認しあいました。

H11.10.2
グランシアタ
オープニングステージから

公演時間の制約から、１団体（個人）５分前後という出演時間を考えバラエティーに富んだ組み立てにするための意見を出しあい決定。事務局が各団体に連絡をとりました。知事選挙もあってスタートが遅れ正味２ヶ月の勝負。腹をくくった覚悟がいりました。〝荒城の月〟のメロディの繰り返し２時間では観賞が飽くのでは、と心配する声がかなりありましたが、私には自信がありました。〝荒城の月〟は名曲です。

流れるような演出、照明、道具の転換、幕のあけしめ、全会場に心地よく行き渡る音の調整など、スタッフ陣の一糸乱れぬ強力なアンサンブル、これがうまくいけば成功する、出演者は大分のトップ級で心配はない、全演目のヤマ場に久保智史君（高校１年）のピアノ独奏をおきました。明日の大分に吹く新風の代表です。歌える吉四六とおへまを味付けに加えたのも成功でした。

当日は見事なアンサンブルで2000人の観客が舞台と一つになって〝荒城の月〟を大合唱、大きな感動を来年に手渡しました。

開会行事

ふるさとの唄まつり

豊陽会会主　安　東　　陽

第１回大分県民芸術文化祭の開会行事として民謡ステージ「ふるさとの唄まつり」を上演しました。

今回の舞台は「創造する文化」を念頭に置き、三味線や尺八伴奏という民謡の定番的な演奏形式に固執することなく、和琴や筑前琵琶、大正琴、更にはシンセサイザーやコンピューターサウンドによる演奏等々、新旧の楽器を混じえた新しい演奏を試みました。

このような新スタイルの実験的舞台には必ず賛否両論が噴出するのですが、観客の反応は予想以上にすばらしく、地元の保存会関係者にも極めて好意的に受け止めて頂いたようです。

昨今とくに民謡の原点論を聞きますが、往時の民衆は手拍子かせいぜい太鼓を使用したものであり、民謡とは元来無伴奏の音楽だったわけです。

従って「正調」の唄を伝承する点に留意さえすれば伴奏楽器に関しては特別な制約はないので、三味線や尺八に限らずこれからはピアノでもギターでも身近な楽器を使って若い人にも大いに民謡に親しんで貰いたいと思います。

今回の芸術文化祭は昨年の国民文化祭を継承発展させる事を目的にしてスタートしたものですが、県民総参加の芸術文化祭の開会にふさわしく民謡舞踊、演劇、コーラス、日本舞踊等々各ジャンルにより20団体のご協力を得たことを感謝し御礼申し上げます。

第１回大分県民芸術文化祭開会行事「ふるさと唄まつり」(H11.10.10 オアシスひろば21グランシアター)

第35回大分県美術展

書道展　審査風景

巡回展　三重会場

11.5～7
文化キャラバン　エイトピアおおの

書道展　10月５日(火)～11日(月)
写真展　10月13日(水)～17日(日)
日・洋・彫・工展
10月19日(火)～24日(日).
☆☆☆☆☆芸術会館☆☆☆☆☆

日洋彫工展

第１回大分県民芸術文化祭

創作作品上演　県民オペラ 瀧廉太郎

大分県県民オペラ協会　小　長　久　子

第１回記念すべき〝大分県民芸術文化祭・総合フェスティバル〟に創作オペラ「瀧廉太郎」を11月７日三重町エイトピアおおの、21日九重文化センターで上演できましたことを一同心から感謝いたしております。

両ホール共に新しく、設備も音響も非常によく、オペラの地方公演に適した会場でした。本格的なオペラ公演を観るのは初めてと云う人が殆どでしたが、非常に分かりやすく、よく理解でき、「花」や「荒城の月」や「お正月」などの可愛い子どもの歌が沢山出てきて楽しめたと評判で、瀧廉太郎の終焉など多くの人々は感動して涙を流しておりました。「今後もこのような行事を…」との主催者側からの希望も出ました。

又、この県民芸術文化祭参加行事として28日大分グランシアタでも九州民音との共催で上演。国民文化祭以来６回目の公演ですっかり出演者も裏方も馴れ、ことにこのホールの完備された照明に非常によい舞台ができ上がり、満席の観客に深い感銘を与えました。

地方で創作された「瀧廉太郎」は日本オペラ協会でも取り上げられ、来年４月７・８日彼が在学中住んだ東京文京区の新ホールオープニング行事にも上演されます。

H11.11.7／エイトピアおおの

中幕行事

30周年記念演奏会を終えて

男声合唱団豊声会会長　中　田　耕　市

この度は第１回大分県民芸術文化祭の中幕行事を担当させていただき、関係各位に厚くお礼を申し上げます。昭和44年の結成以来、男声のハーモニーが忘れられない男、男声合唱の響きを堪能したい男たちが集まり歌い継いで30年が経過しました。

３年ほど前に院内町からの委嘱を受けて、石橋をテーマに、佐々木均太郎氏に作詞、石井歓氏に作曲をお願いしたところ、素晴らしい合唱組曲が出来上がりました。「石橋の町」がそれです。

H11.11.6／音の泉ホール

豊声会創立30周年の記念と芸術文化祭中幕行事という晴れがましいステージで、作詞、作曲家を迎え、しかも男声合唱組曲としての「石橋の町」の初演が出来たことは団員一同にとって忘れがたいこととなりました。

これからも豊声会は、「心休まる音楽づくりを目指そう」「みんなで男のハーモニーを奏でよう」「文化の発信源のひとつになろう」をモットーに合唱活動を続けていくつもりです。

閉幕行事

ミュージカル「朝日長者物語」

九重町ミュージカル創作実行委員長　帆　足　忠　義

九重町民が創作したミュージカル『朝日長者物語』が第１回大分県民芸術文化祭閉幕行事という、思いがけない光栄に力不足を顧みず、お引き受けいたしました。

作品は町に古くから伝わる伝説『朝日長者物語』を文化ホールのこけら落とし事業として企画しました。監修、台本、演出、作曲は県下でトップの専門家の皆様にご指導を頂き、キャスト・スタッフは町民から募集、オーディションを行って決定しました。ミュージカルを見たこともない町民が指導者の厳しい稽古に耐え、今春３月には無事こけら落としで３回上演し拍手喝采を頂きました。

今回の閉幕行事は県民演劇と合同で担当することになり、お互いの呼吸がぴったり合うかどうか心配でしたが、当日は満席の観客と一流のスタッフに支えられ、町民のパワーを惜しみなく発揮でき、舞台は成功いたしました。

この感動を礎に、各地に向けて地域文化の発信をしていきたいと、思いを新たにしているところです。

H11.11.27／大分県立芸術会館

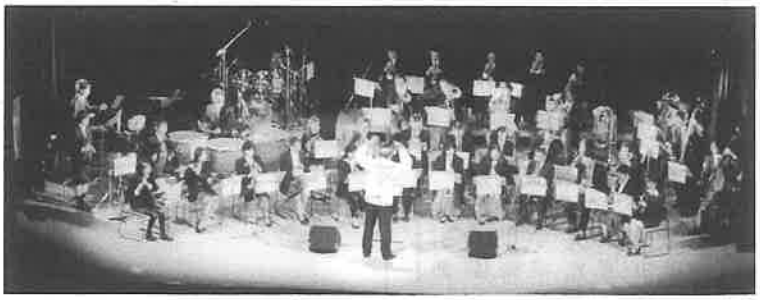
大分県民芸術文化祭スナップ

第１回大分県民芸術文化祭が10月１日から11月30日まで県内各地の会場で開催されました。

大分県民芸術文化祭行事の中から一部をご紹介します。

第31回大分県川柳大会　H11.11.28／大分文化会館

第15回園田高弘賞ピアノコンクール
H11.11.21／音の泉ホール



LIGHT MUSIC FESTIVAL'99　H11.11.13／音の泉ホール

第１回大分県民芸術文化祭賞一覧

大分県民芸術文化祭大賞

受賞行事	実施団体	理　　由
閉幕行事 ミュージカル 「朝日長者物語」	九重町ミュージカル創作実行委員会 委員長　帆足　忠義 大分県民演劇制作協議会 代表　清末　典子	地域固有の文化を掘り起こし、演劇経験のない町民たちが３年間をかけて創りあげたミュージカル作品を全県民に向け情報発信を行った本行事は、地域文化創造のリーディングケースとなるものであり、本県の地域文化の振興に大きく貢献した。

大分県民芸術文化祭奨励賞

受賞行事	実施団体	理　　由
開会行事 ふるさとの唄まつり	大分県民謡研究会豊陽会 会主　安東　　陽	従来の民謡の枠にとらわれず、日本舞踊、コーラス、コンピュータミュージック等と民謡との連携を試みるなど、正調の唄を基本としつつ、斬新かつ重量感と躍動感あふれるステージを作り上げた。
中幕行事 男声合唱団豊声会創立30周年記念演奏会	男声合唱団豊声会 会長　中田　耕一	30年の永きに亘り大分県の男声合唱をリードするとともに、院内町が制作した「石橋の町」を30周年記念として男声合唱組曲に編曲して初演するなど、充実した内容のステージを繰り広げた。
第35回大分県美術展	大分県美術協会 会長　脇　　正人	35年の永い伝統を基に、充実した内容の展覧会を大分市内をはじめ県内各地域で広く開催し、本県の美術水準の向上と県民の文化を鑑賞する機会の充実を図った。
第35回大分県短歌コンクール	大分県歌人クラブ 会長　平松　茂男	永年に亘り本県の短文学の振興と発展に貢献した実績を基に、35年の節目にふさわしい充実した内容の大分県短歌コンクールを開催した。
つくみ芸能文化フェスティバル	つくみ芸能文化フェスティバル実行委員会 会長　小野　安敏	子ども達から高齢者まで、合唱、吹奏楽、伝統芸能、舞踊等の芸能文化を発表する機会と鑑賞する機会を作り、心豊かなまちづくりと市民の一人一文化活動を推進した。
神楽フェスティバル	大分県民芸術文化祭蒲江町実行委員会 会長　鳥生　　實	町内の地域芸能である神楽にスポットを当て、町内11の神楽社が一堂に会した神楽フェスティバルを初めて行い、地域芸能の保存と振興に大きな成果を上げた。
第80回 チャーチル会大分作品展	チャーチル会大分 幹事長　山科　亀寿	各会員による意欲的な大作の創作や過去最高となる出品数などチャーチル会創立45周年、80回の節目にふさわしい充実した内容の作品展を行った。
池田流萬謡會二代目家元披露公演 「民謡ふる里のこころ」	大分県民謡研究会萬謡會 会主　池田　萬穂	企画構成民謡「なかつ哀歌」の創作や人間国宝宝山左衛門の特別出演などを通じて、斬新かつ格調の高い舞台を作り上げた。
第36回民踊まつり	日本民踊研究会九州支部 支部長　田近　豊次	本県はもとより、九州各地から出演者が参加し、大分県民踊を中心に全国の民踊を延べ500人で上演し、充実したステージを繰り広げた。

大分県民芸術文化祭特別賞

受賞行事	実施団体	理　　由
大分県民芸術文化祭オープニング企画委員会 狭間　　久　　中沢とおる 吉田　　寛　　清末　典子 辛島　光義	オープニングステージ 「荒城の月を謳う」	大分県民芸術文化祭オープニングステージ「荒城の月を謳う」の企画、構成、演出を行い、県民の文化の祭典として、第１回大分県民芸術文化祭のオープニングにふさわしい手作りのステージを作りあげた。

加盟団体紹介

「歩道」大分支部の目ざすもの

代表　加　来　　進

全国的短歌結社「歩道」は芸術院会員であった故佐藤佐太郎が起こした短歌会で、その主張は万葉集を源流とする正道短歌に基づく『写生』を第一義としている。

最近の歌壇には、世界に誇り得る日本のこの伝統詩のもつ真の精神をないがしろにして専ら言葉遊びに耽溺する風潮が瀰漫していて、このままでは曾ての第二芸術論の再発を招きかねない状況にある。

われわれ「歩道」大分支部会員は、その数は多いとは言えないが、佐藤佐太郎が説いた《純粋短歌論》を柱に軽佻浮華を廃し観念的な遊戯に陥ることなく、ひたすらに『写生』の道を歩きつづけている。

会員は月々の例会はもとより、地方ブロック大会あるいは全国大会などに積極的に参加して研鑽を重ねており、その作品には派手さや通俗性がなく、一見極めて地味にみえるがよく味わえば詩情が滲み出て来てこれこそ本物の短歌であると自負できる。

筆者は雑誌「歩道」の作品評を書いたり、全国大会や地方ブロック大会の評者をつとめ、またこれらの大会の開催を手がけるなどもしている。

りぶの会発足から30年

代　表　佐藤京子
事務局　水内康子

1971年、なぜ女だけが家庭か制作のどちらかを選択しなければならないのか？の疑問から「日常生活の雑務に埋没することなく、自己を見つめ、主体的に自らの造形活動を続けていこう」をモットーに「りぶの会」がスタートとしました。りぶの意味は、「live」（生きる）又は開放、自由です。始めは油絵だけでしたが、今では水彩、日本画、彫刻、版画、インスタレーション等種々の実験作を発表しています。会員は14名で20代から60代と幅広い年齢層となっています。自由に伸び伸びと表現できる、と会員の評判はすこぶる良好です。多くの方に会期中作品批評を頂けるも楽しみの一つで勉強の場となっており感謝しています。

さて、2000年８月１日㈫～８月11日㈮に大分市アートプラザのアートホールで第30回記念展を開催することになりました。５日㈯はささやかなパーティも同レストランで開く予定です。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

事務局だより

平成11年度会員(秋)の受彰(賞)者紹介

◆**文部大臣表彰**(地域文化功労者：芸術文化功労)
大分市民合唱団　ウィステリア・コール

◆**大分県知事表彰**（文化振興）
大分県日本舞踊連盟

◆**大分県合同新聞文化賞**（功労賞）
久保　青山（大分合同短文学の会会長）

◆**久留島武彦文化賞**（個人賞）
倉田　紘文（「蕗」発行所主宰）

新会員紹介

■個人会員

番号	氏名	〒	住所	電話	番号	氏名	〒	住所	電話
233	富成　碩甫			097-523-3617	235	平松　茂男			
234	足立　雅泉			0974-22-0997	236	太田　宅美			

平成11年度大分県芸術文化基金事業費実績報告書の提出について

補助対象事業を終了した団体は交付要綱により、実績報告書（領収書の写しを添付）及び補助金交付請求書を提出してください。提出期限は事業終了後30日となっています。

会費納入のお願い

会費未納の方は早めに納入をお願いします。なお、振込用紙をなくされた方は事務局までご連絡ください。お送りします。

99年度版「大分県文化年鑑」の編集開始

第１回、第２回の編集委員会を経て、本年度の「大分県文化年鑑」の編集方針・編集スケジュール等も決まり、編集委員・執筆委員の先生方には大変なご尽力をいただいております。各団体会員の方にも平成11年の文化行事の調査票をお送りしていますので、よろしくご協力をお願いします。

大分県文化年鑑編集委員及び執筆委員名簿

	ジャンル	氏名		ジャンル	氏名		ジャンル	氏名
文芸	部門・小説	佐々木　均太郎	美術	写真	河野　公記	舞踊	部門・洋舞	佐藤　朱音
	現代紙	首藤　三郎		デザイン	波多野　義孝		日舞	花柳　笹之丞
	短歌	伊勢　方信	音楽	部門	辛島　光義		民踊	伊坂　香里
	俳句	香下　寿外		声楽	堤　俊博	演劇	部門	中沢　とおる
	現代俳句	足立　雅泉		室内楽	辛島　光義		自立演劇	清末　典子
	川柳	佐藤　真砂延		吹奏楽	斉藤　哲哉		高校演劇	安部　証
	連句	佐々木　均太郎		オーケストラ	松尾　英一	児童文化		首藤　悦爾
	俚謡	土屋　北彦		作曲	野崎　哲	能楽		緒方　基秀
美術	部門	十時　良		合唱	三浦　彰	生活文化		藤原　嘉久
	日本画	鈴木　忠実		オペラ	小長久子	文化財愛護		吉永　浩二
	洋画	脇坂　秀樹		軽音楽	中野　幸和	表紙		山崎　哲一郎
	彫刻	合田　習一		邦楽	後藤　碩山	カット		古長　康典
	工芸	佐藤　武郎		民謡	松井　猛			
	書道	樋口　紫水		吟界	深田　光霊			

事務局／大分市大手町３丁目１－１　大分県企画文化部文化振興課内大分県芸術文化振興会議　TEL(097)536-0522